

Rich ~ピチャリ~

七飯町歴史館だより
第86号

ななえ古写真物語

VOL. 86

氷滑事始め

ななえスケート史
昭和40年代か？
大沼国定公園



冬の大沼の思い出のほとんどが、スキーである私だが、まだ小さい時に、一度だけスケートをした記憶が残っている。当時、函館には2か所のスケート場があったと思うが、今まで行ったことのない場所であったこと、そして、湖面がリンクと化しているため、みんなが滑っている場所以外には、いくつか大きな穴が開いていて、その周りをロープで囲い、立ち入り禁止になっている様子を見て怖さを覚えたのが、印象的だったからだと思う。

現在の大沼には、なじみの薄いスケートがいつ頃から始まったのか調べてみると、意外にも歴史が古く、明治42年2月9日発行の函館毎日新聞に、「大沼氷に発会式」が2月7日に行われ、宮川勇・岡田善治ほか40名によって、大沼湖上に幅五間周囲三町ほどを排雪し、氷上を滑らかにして、氷滑（スケート）ほか、数種の氷上遊びが出来るようにした。という記事が掲載されている。

おそらくは、明治の後半から、下駄スケートなどが広まり、凍った道路などで遊ばれていたものと思われるが、大沼湖上をスケート場にして大々的に遊戯の場として開放したのは、この時が初めてと考えられる。

また大正15年には、夜でも滑れるように煌々と電灯をともしたり、スケートで大沼の島巡りが出来るようにしようという計画までも上がったようです。これが完成すれば全国一のスケート場となると、意気込んでいた様ですが、その顛末は伝わっておりません。

明治後半から大正にかけて、地元有志などで開かれていたスケート会でしたが、昭和になってからは、スキーの普及や戦時体制下となっていく時代背景からか、新聞記事に掲載されることもほとんどなくなり、リンクも作られなかったようです。

しかし、戦後の復興の最中となる昭和24年に再び有志によってスケートリンクを開設。この時は山水旅館前でスケート大会が開かれたと記録されているので、大沼ではなく小沼付近だったようですが、あまり長くは続かず、昭和41年に西大島橋付近に「ヘルスセンター」というホテルがスケートリンクを再開、私の思い出にある大沼のスケート場は、その後継続されたものと考えられますし、上に紹介した写真もその後のひとコマと思われる。

ふとした記憶から調べ、大沼のスケート事始めが私の想像よりも古かったという話でした。

14日

夜の博物館の第2夜は「赤松並木を考える」と題して。七飯町の誇る景観の一つである「赤松街道」の歴史や関係する人物について学びました。

自生の北限を越えて、江戸時代に種から育てたこと、なぜ国道沿いに植栽されたのか?、コモ巻きの意義。といった小断から、アカマツを脅かす害虫を標本でみたりなど、多方面から赤松並木を考えるよい時間になったのではないかと思います。



31日

ジュニア探検クラブで、凧づくりに挑戦しました。まずは、日本における凧の歴史について、呼び名の変化から遊びに発展するまでを学芸員が説明し、その後、凧に描くデザインを考え、各々の凧にサインペンなどで、自由に絵をかきました。午後からは、程よい風が吹く中、役場の駐車場で凧上げに挑戦です。糸が絡まるというハプニングも続出しましたが、80m位の高さまで揚げる事が出来た子どももいたり、よく揚がる凧に、楽しそうな様子でした。



バードテーブル設置してます

12月からバードテーブルを設置していたのですが、あまり鳥たちが集まりませんでした。しかし、突然降ったドカ雪の影響で、エサが探しにくくなったからなのか、ようやく、ちらほらと集まってくれるようになりました。ひまわりの種を目当てに、シジュウカラ、ゴジュウカラ、ヤマガラが入れ替わり訪れる様子に、ここの所癒されている毎日です。



3月の予定

1	日	ふぁみりーでいみゅーじあむ
2	月	
3	火	
4	水	夜の博物館
5	木	
6	金	
7	土	
8	日	
9	月	
10	火	
11	水	
12	木	
13	金	
14	土	
15	日	冬の探鳥会
16	月	
17	火	
18	水	
19	木	
20	金	
21	土	春分の日・ジュニア探検クラブ
22	日	
23	月	
24	火	
25	水	
26	木	
27	金	
28	土	
29	日	
30	月	
31	火	

3月の休館日はありません。

ヤドリギ

先日、折れ枝に寄生しているヤドリギを見つけたので、花瓶にさして様子を見ていますが、育成するのは難しいので、標本にでもしようかと考えてます。



編集後記 ~tawagoto~

立春が過ぎたあたりから突然の大雪。雪の多さに反比例して、入館者が減少する現実を肌身を感じているところですが、それでも冷たい風の中に柔らかさや、日差しに温もりが増しているのを感じると、確実に季節は春へ向かっているのだと思います。

今年度も残すところ1カ月余り、力不足で実現できなかったことなどありますが、毎日を実際に過ごしていきたいと思っておりますので、変わらぬご支援を賜りたく存じます。(やまだひさし)

Richard ~ピチャリ~
第86号

平成27年2月20日 発行

七飯町歴史館

〒041-1193 亀田郡七飯町本町6丁目1-3

電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182

E-mail: rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp